

地域課題・目指す将来像

地域
課題

- 農業就業人口が5年で20.7%減少、1戸あたりの管理面積が増加、人手に頼る管理手法のままでは適切な管理が難しく、キャベツの年間生産量維持には生産効率向上が必要
- 標高1,000m以上の山間地という地理的特性、限られた人員に頼った現在の災害初動体制構築には限界がある
- 防災と農業が別々の仕組みとして運用され、人的・物的リソースが効率的に活用できていない

将来像

- 人口減少下においても「夏秋キャベツ生産量日本一」を維持し、未来技術を駆使して安定的かつ効率的な維持産業基盤を確立し、次世代に継承できる持続可能な農業モデルを確立する
- 山間地特有の災害リスクに対し、平時の営農活動で得られるデータや設備を防災にも活用できる地域防災モデルを構築する
- フェーズフリーの考え方を取り入れた官民連携により、限られた地域資源を最大限に活用できる持続可能な村づくりを実現する

推進体制

名称：嬭恋村未来技術地域実装協議会

地方公共団体	群馬県嬭恋村
国（★は現地支援責任者）	内閣府（★地方創生推進事務局、政策統括官（防災担当））、内閣官房（新しい地方経済・生活環境創生本部事務局）、デジタル庁（国民向けサービスグループ）、総務省（地域力創造グループ、関東総合通信局）文部科学省（科学技術・学術政策局）、農林水産省（関東農政局）、経済産業省（関東経済産業局）、国土交通省（航空局、関東地方整備局）、環境省（上信越高原国立公園管理事務所）
民間事業者	スカイビュージャパン(株)、FwriteDown行政書士事務所、(一社)嬭恋STYLE、(一社)日本ドローンコンソーシアム
その他	西吾妻交通安全協会、嬭恋村ドローン推進協議会、国立研究開発法人防災科学技術研究所

課題解決に向けた取組

(図：嬭恋村提供)

① 定点データのAI画像解析による
地形変動観測【AI】

- ・ 災害訓練を兼ねた定期データ収集
- ・ 収集画像等の画像解析による観測と予測

③ 災害訓練を兼ねた平時定期収集データの二次利用環境を構築【ビッグデータ】

- ・ 農地データ（自動運転・生育観測等）
- ・ 山林データ（獣害対策・地形変動観測等）

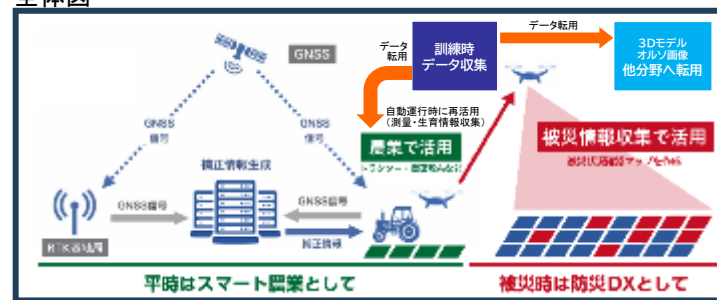
② フェーズフリー型防災DXプラットフォームの導入【IoT】

- ・ 平時は事業者の業務管理システムとして民間が活用
- ・ 災害時は災害支援業務管理システムとして官民共同活用

④ スマート農業環境構築(RTK・フェーズフリー業務管理システム)【ドローン】

- ・ 平時はGNSS位置精度向上によるスマート農業実現
- ・ 災害時は高品質な被災状況確認マップの早期作成

全体図



フェーズフリーによる業務シフト概念図

